

令和元年度第2回北海道立函館美術館協議会会議録

- 1 日 時 令和2年2月19日(水) 10:00～11:30
- 2 会 場 北海道立函館美術館 講堂
- 3 出席委員 仲井会長、木村副会長、川島委員、小宮委員、酒井(里)委員、進藤委員、武井委員、中村委員、二階堂委員、堀田委員
(欠席委員：今委員、酒井(康)委員)
- 4 傍 聴 者 報道関係者2名(函館新聞社、北海道通信社)
- 5 議 事

(1) 報告事項

ア 令和元年度事業実施状況について

事務局：資料1に基づき、展覧会、教育普及事業及び作品収集状況(予定)等について説明。

委 員：作品収集状況についてだが、例えば、平林薫の作品は、どの収集区分に入るのか。

事務局：収集区分に現代アートという区分が当初から設定されていなかったため、同じ現代アートの作家でも、作品によっては「油絵」に入れたり「彫塑」に入れたりしているのが現状。

委 員：それでは、映像作品はどの収集区分に入るのか。

事務局：現在、映像作品が保存されていないが、今後、映像作品が収集されれば、「その他」に入れるか、「写真」のところを「映像」への枠組みの変更をしていく可能性はある。

(2) 報告事項

ア 令和元年度美術館評価(案)について

事務局：資料2に基づき説明。

委 員：評価全般に関わることだが、評価項目に設定されている指標値は、何かの基準をベースにして設定しているのか。

事務局：ほとんどの指標値は、過去5年間など数年間の実績の平均値で算出している。ただし、「A優れた作品の収集と保管」のコレクションの稼働率については、評価が始まった平成29年度において調べた過去の実績を継続して使用しているが、来年度は過去の実績の平均値に変えていく予定。

委 員：「E地域文化の振興」のキャンパス・パートナーシップのメンバー校数の評価指標について、コメント欄にメンバー校が1校増える見込みと記載されているが、その学校はどこなのか。

事務局：その学校とは現在も協議継続中であるため、この場では、申し上げられないが、来年度にはお知らせできる。

委 員：北海道教育大学函館校にマジカル・ワークショップのサークルがあったと思うが今はどうなのか。また、現在、美術館と教育大学との間で様々な取組を行っていると思うが、それはサークルのメンバーではなく地域プロジェクトととし

ての参加なのか。

事務局：かつては北海道教育大学函館校にも美術の専攻があり、マジカル・アシスタントというサークルが存在していたが、最近、サークルが学生の中で成り立たなくなりました。今はサークル活動ではなく、1年間通して、地域プロジェクトの授業に参加している学生さんが、毎回4～5名参加していただいている。

委員：ちなみに地域プロジェクトの担当の先生は、美術専門の方なのか。

事務局：美術専門の方ではない。

委員：学校教育活動への対応について、例えば、今回、函館市内の巴中学校が参加して鑑賞授業をしていただいたり、七飯養護学校に作品を持って行って、子どもたちの前で作品を見せたり体験活動をされて、とても素晴らしいと感じている。今後もぜひそういった活動を継続していただきたい。

委員：「F 良好な滞在環境の提供」の館のホスピタリティの項目で、数件の苦情が寄せられたと記載があるが、どのような苦情なのか。

事務局：受付での対応や電話での対応の仕方などである。

イ 令和2年度運営計画について

事務局：資料3及びパワーポイントに基づき、令和2年度の展覧会及び教育普及事業について説明。

委員：ほぼ年間を通して、鷗亭の作品が展示されていると思うが、函館市内にも書家の団体や書家の方がたくさんいらっしゃるが、美術館からそういった方々に展覧会のご案内はされているのか。

事務局：1年間の展覧会スケジュールが載っているミュージアム・カレンダーを毎年、主だった文化関連団体や教育関係機関、公共施設等に送付させていただいている。

委員：リサ・ラーソンさんは陶芸の作家さんで、その作品は少し値段は高いが、割と普通に販売されている。今回、ショップでグッズの販売は行われるのか。

事務局：販売用の商品が多数あるので、販売を予定している。売店とカフェを一体化させて、まだ仮称であるが、「リサ・カフェ」として、実際に商品化された器を使うことを検討している。

委員：多彩なイベントが行われており、大変素晴らしいと思う。また、常設展がなかなか入りづらいところを、企画展と連動させるなど、非常に工夫されている。質問だが、評価を行うことにより、事業に対する取組や細かな所まで目配りするようになったなど、評価を行うことによって何か変化が生まれたか。

事務局：例えば、美術館評価の「B 多彩で特色ある展示活動の充実」の評価項目「展示の状況」には、評価指標として「展示のねらいが効果的に表現できているか」が掲げられているが、それにより展示方法をさらに工夫していかなければならないという意識がより強くなっている。評価がない時と比べると、美術館側の意識がかなり高まってきていると思う。

委員：来年度の展覧会はとても楽しみだが、岩橋英遠さんの展覧会で、日本画の葛西

由香さんの作品も紹介される。公立の美術館での開催なので、十分な研究成果のもとで紹介されることになっている。一方でいろんな声も聞こえてくる可能性がある。若くて伸びしろのある作家をどのように紹介していくのか教えていただきたい。

事務局：この展覧会は、「アートギャラリー北海道」事業の一端であり、道内の様々なミュージアムと相互貸借して、他館のコレクションを活用していくことを一つの柱としており、もう一つの柱として、若いアーティストを紹介していくことを掲げている。今回、葛西さんを取り上げたのは、二つ目の柱に基づくもの。2年前から網走市立美術館と連携して調査を進めてきている。先ほど画像で紹介した「明治物語」という襖絵は、郷里の網走市に寄託されている作品である。今回はその「明治物語」以外に網走市立美術館が所蔵している4点の作品をお借りし、それと併せて本人が大学卒業制作で制作した一対の絵画と近年制作した最新作で構成する予定。現在活躍中の作家なので、インスタレーションの時に立ち会いに来ていただくとともに、オープニングの日にアーティスト・トークをしていただく予定。

委員：連携事業は手間のかかる事業だと思うが、調査研究事業がベースになることがとても重要である。美術館評価調書の話に戻るが、「D活動の基礎となる調査・研究の推進」の指標値や実績値などはすべてスラッシュになっており、何も入っていない。これを一つの指標値としてしまうと、どうかと思うところはありながらも、優れた成果があがっているので、それをベースに指標にして後の評価につなげていけばよいのではないかと思う。先ほど研究成果の内容が良くなってきているというお話があったので、もったいないと感じている。

事務局：美術館評価は平成29年度から始まり、今年度で3回目の評価になる。来年度中に本庁でこれまで3年間行ってきた評価について、課題検証を行う予定である。今後、指標の立て方などについても議論がされるので、その状況について次回の協議会にご報告させていただく。

ウ 北海道立函館美術館協議会公開規程の一部改正について

資料4に基づき、LGBTの方々への配慮のため、美術館協議会の傍聴申請書の男女欄の削除について、事務局から提案。

会長の進行のもと、審議を行った結果、出席委員の過半数の賛成があったため、事務局案のとおり決定。

施行日は、協議会における決定日の翌日。

(3) その他

アートギャラリー北海道「どうなんアートリンク」について

事務局：資料5に基づき、スタンプ・ラリー、相互割引、作品などの相互借用、作品の保存管理に関する相談など、令和2年度の取組について説明。

委員：意見なし